

ご挨拶

日本バルカー工業株式会社
代表取締役社長 兼 CEO

瀧澤 利一



謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

読者の皆さまには日頃から本誌をご愛読頂き、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、わが国の産業界、特に製造業においては企業収益の改善を反映した設備投資意欲の向上、為替円安や米国経済の底堅さを背景にした輸出の回復など、濃淡こそあるものの、景気の持ち直しに向けた動きが見られました。しかし、個人消費に目を向けますと、消費税率引き上げの影響から脱しきれなかったことに加え、物価指数や所得水準の数値が期待に届かないなど、回復の遅れが目立つ結果となりました。

一方、海外経済は、米国は不安定ながらも景気の回復基調が持続いたしました。欧州や新興国の経済は好転せず、さらに今後に向けても地政学の問題の増加や通貨危機の再燃への懸念など、不確実な要素が増した一年となりました。

このような中でありながら、当社におきましては、新事業の持続的創出、展開を図るべく、シールテクニカルセンターを奈良事業所、MRTセンター及び上海中国シール研究所の3拠点に展開し、当社独自のシールエンジニアリングソリューションをご提供できる体制を整えました。これは、当社の製品を今まで以上に適切に選んで頂くとともに、正しく使って頂くことで、お客さまに更なる安全・安心をご提供することを目的とした取り組みとなります。また、本年度は、中期経営計画NV・S 6の最終年度となりますので、この完遂とともに、新年度の4月から始まるNV・S 7に沿って、この新しい取り組みを益々飛躍させ、新たな顧客感動の提供による事業基盤の拡充に向けて力を入れてまいります。

ところで、今回の本誌につきましては、今までとは少し趣を変え、従来の当社の事業基盤の一つであります機能樹脂事業関連での取り扱い製品につきまして、特集として紹介させて頂きました。ふっ素樹脂に関わる製品が中心となっておりますが、当社製品をご理解頂く一助になれば幸いです。

今後も当社が独自に保有する技術を礎に、更なる新製品、新サービス、新技術にて社会に貢献できる開発を進めるとともに、グローバル産業の発展に欠かせない役割を担うことができる企業を目指してまいります。

最後になりましたが、読者の皆様の益々のご発展を祈念し、本年のご挨拶に代えさせていただきます。